

令和８年度 産業・情報技術等指導者養成事業

実施案内

教科（水産：D－１）

- １．研修期間：令和８年７月２７日（月）～令和８年７月３１日（金）
- ２．研修日程：別紙１のとおり
- ３．講師一覧：別紙２のとおり
- ４．会 場：新潟県立海洋高等学校
〒９４９－１３５２
新潟県糸魚川市能生３０４０
電話：０２５－５６６－３１５５ FAX：０２５－５６６－４７８１
連絡先：新潟県立海洋高等学校 担当（教諭）：金子 義昂 先生
- ５．研修初日の集合時間及び場所：
７月２７日（月）午前８時３０分
新潟県立海洋高等学校 ２ME 教室（受付／開講式を行います）
※会場の周辺（案内）図は別紙のとおり。
- ６．持参するもの：
【講義受講用品】筆記用具、ノート等
【実技受講用品】水着、スイミングキャップ、ゴーグル、フィン、マスク、スノーケル、BC（BCD）、レギュレーター、オクトパス、残圧計、水深計、ウエットスーツ、（この講習はスクーバ・ダイビングコーチ １（指導員）専門科目認定講習となります。指導員となるためには自分の器材を持ち、それに慣れていることが必要ですので、原則として器材の貸し出しはしません。空気タンク、ウエイトは用意します。※ウエイトベルトはご持参下さい。）
【日常生活用品】トレーニングウェア、シューズなど受講しやすい服装、健康保険証、常備薬、洗面用具等。
※荷物を送付する場合は、会場（新潟県立海洋高等学校 金子義昂 先生）宛に送って下さい。
- ７．宿泊について：各自で手配願います。
＜参考＞能生駅周辺に民宿等があります。
また、糸魚川駅周辺にはビジネスホテル等があります。
- ８．内 容：本研修会は「（公財）日本スポーツ協会公認スクーバ・ダイビングコーチ １（旧指導員）」資格を取得するために必要となる「専門科目」を行います。
本研修会を受講し、筆記試験及び実技検定に合格することで専門科目が修了となります。

【実技検定内容】

- ア クロールで10分間休まず泳げる。
 - イ スノーケリング400メートル。
(7分以内。但し、30歳以上8分以内、40歳以上9分以内)
 - ウ 水平潜水能力40メートル。(フィンを使用)
 - エ 垂直素潜り。(水深5m)
 - オ スクーバ脱着。(5分以内)
 - カ スクーバ・ダイビング全般の指導が出来ること。
 - キ 全てのスキルにおいてデモンストレーションが行えること。
- ※実技検定内容の詳細は、別紙3のとおり。

※(公財)日本スポーツ協会公認スクーバ・ダイビングコーチ1資格を取得するには、「専門科目」の他に、「共通科目Ⅰ」が必要となります。

9. 受講条件：水産校長協会「潜水技術検定証書基準」記載の、教員の指導体制要件と同等の講習を修了していること。

※受講者は、事前に十分なタンク本数を重ねることで、経験を積んでおくこと。

※日本スポーツ協会の公認スクーバ・ダイビング指導員を取得する場合、別途通信教育による講座受講が必要となる。

10. お問い合わせ先：〒231-0005

神奈川県横浜市中区本町4丁目43番地 A-PLACE 馬車道9階

TEL：045-228-3067 FAX：045-228-3063

E-mail：marine-safety@kaiyo-reja.gr.jp

一般財団法人 日本海洋レジャー安全・振興協会 安全事業部

担当：高野・平川・若佐

令和8年度産業・情報技術等指導者養成事業研修日程

(水産，D－1)

団体名 一般財団法人日本海洋レジャー安全・振興協会

日 時	8:40	9:00	9:40	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	10	16:00	15	30	17:00	10
7月27日 (月)		開講式 オリエン テーショ ン	休憩	(講義)	昼食・休憩	(講義)	休憩	(実習) 講義含む							
				ダイビングの歴史と概要インストラク ターの役割 (野澤先生2h)		ダイビング事故と安全対策 (千足先生1h・蓬郷先生1h)		スキン・ダイビング指導能力、フィン泳力 指導能力、スクーバ・ダイビング指導能力 (澤田先生、千足先生、蓬郷先生)							
7月28日 (火)	筆記テスト①		休憩	(講義)	昼食・休憩	(講義)	休憩	(実習)							
				潜水計画及び指導計画 (指導法) (千足先生1h・蓬郷先生1h)		潜水物理学 (潜水と減圧症) (野澤先生2h)		指導実習の実践 (澤田先生、千足先生、蓬郷先生)							
7月29日 (水)	筆記テスト②		休憩	(講義)	昼食・休憩	(講義)	休憩	(実習)							
				潜水医学、メディカルチェック (鈴木先生2h)		潜水生理学 (潜水と身体適正) (野澤先生2h)		個人、集団の指導及び評価方法 (澤田先生、千足先生、蓬郷先生)							
7月30日 (木)	筆記テスト③		休憩	(講義)	昼食・休憩	(講義)	休憩	(実技検定)							
				減圧表について (澤田先生2h)		潜水計画及び指導計画 (海況判断) (千足先生1h・蓬郷先生1h)		40m平行潜水、400mフリップパー、10分間泳 (クロール泳)、スクーバ水中脱着 (澤田先生、千足先生、蓬郷先生)							
7月31日 (金)	筆記テスト④		休憩	(講義) 実習含む	昼食・休憩	(講義) 実習含む	休憩	(講義)	休憩	研究協議 (西澤視学官1h)		休憩	閉講式		
		救急蘇生法 (千足先生1h・蓬郷先生1h)		酸素ファーストエイド (野澤先生2h)											
	8:40	9:00	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	10	16:00	15	30	17:00	10

(1) 講師及び講習の内容については、会場や講師の都合等により変更する場合があります。
(2) 実習においては、状況により臨機に休憩をとります。

実施会場：新潟県立海洋高等学校（新潟県糸魚川市能生3040）

講 師 一 覧

氏 名	職 名	担 当 講 座
野澤 徹	・ 水中科学研究所 代表 ・ DAN JAPAN 主任 研究員 ・ 日本高気圧潜水医学会 評議員 ・ 潜水医学情報ネットワーク 副理事長 ・ 日本スポーツ協会公認スクーバ・ダイビングコーチ2	・ ダイビングの歴史と概要 ・ インストラクターの役割 ・ 潜水物理学 ・ 潜水生理学 ・ 酸素ファーストエイド ・ 筆記テスト
千足 耕一	・ 東京海洋大学 教授 ・ 全国水産海洋高等学校潜水部会 顧問 ・ NAUI インストラクター	・ ダイビング事故と安全対策 ・ 潜水計画及び指導計画（指導法） ・ 潜水計画及び指導計画（海況判断） ・ スキンダイビング、フィン泳力、スクーバ・ダイビング指導能力 ・ 指導実習の実践 ・ 個人、集団の指導及び評価方法 ・ 実技検定 ・ 救急蘇生法
蓬郷 尚代	・ 中央大学 准教授 ・ PADI インストラクター	・ ダイビング事故と安全対策 ・ 潜水計画及び指導計画（指導法） ・ 潜水計画及び指導計画（海況判断） ・ スキンダイビング、フィン泳力、スクーバ

		・ダイビング指導能力 ・指導実習の実践 ・個人、集団の指導及び評価方法 ・実技検定 ・救急蘇生法
澤田 和之	・小樽水産高等学校教諭 ・日本スポーツ協会公認スクーバダイビングコーチ2	・スキンドайビング、フィン泳力、スクーバ ・ダイビング指導能力 ・指導実習の実践 ・個人、集団の指導及び評価方法 ・減圧表について ・実技検定
鈴木 信哉	・医師 ・潜水医学専門医	・潜水医学、メディカルチェック
西澤 美彦	・文部科学省視学官	・研究協議
高野 修	・日本海洋レジャー安全・振興協会安全事業部長 ・全国水産海洋高等学校潜水部会顧問 ・日本スポーツ協会公認スクーバ・ダイビングコーチ2 ・NAUIコースディレクター ・CMASエグザミネーター	・事務局
若佐 奨	・日本海洋レジャー安全・振興協会安全事業部	・事務局

【参考】 検定項目についての評価内容および手順について

- 全ての項目 ※受講者 30 名を想定しています。

「安全に」「正しく」「落ち着いて」行う。

配置についたら検定員に氏名を伝える。

検定内容については、基本スキルは出来ていることが前提で行われる。

よって、基本スキルが出来ていない場合は、検定以前の問題とし、可否判定にも反映される。

- 10 分泳

【評価内容および手順】 ※水着。

コースロープには触れない。泳法はクロールのみ。

スタート：検定員の合図で一斉にスタート。

終了： 検定員の終了合図とともに終了。

【流れ参考例】

6 名ずつ×5 組。基本、深場側を若い番号とし、順番にコースに入るが、泳力のある者（3 名）が深場で泳ぐこととする。次の組は 10 分間の距離を確認し、検定員に泳者の氏名と距離を伝える。

3 組目以降の者は順番に左右近い側プールサイドに一直列に並び待機および安全管理。

終了した者は、一番後ろに並ぶ。

- 400M フリッパー（7 分以内。ただし、30 歳以上 8 分以内、40 歳以上 9 分以内）

【評価内容および手順】 ※マスク、スノーケル、フィン、ウエットスーツ。

ターン時のタッチ手かきは 360 度まで。スタート時の 180 度および、ゴール時のタッチ片手かきは 180 度まで。

スタート：検定員の合図で一斉にスタート。

終了：タッチしてゴール。

【流れ参考例】

6 名ずつ×5 組。深場側を若い番号とし、順番にコースに入る。次の組はゴールタイムを確認し、ゴール後検定員に泳者の氏名とタイムを伝える。

3 組目以降の者は順番に左右近い側プールサイドに一直列に並び待機および安全管理。

終了した者は、一番後ろに並ぶ。

- 40m 水平潜水

ハイパーベンチレーションを行わない。

【評価内容および手順】 ※マスク、スノーケル、フィン、ウエットスーツ、適正ウエイト。

スタート：検定員の合図で一斉にスタート。

終了：待機している次の組の者に OK サインを出す→次の組の者が OK サインを返したら検定終了。

【別添 3】

〔流れ参考例〕

3名ずつ×10組。深場側を若い番号とし、順番にコースに入る。次の組は準備をしてスタート地点付近で待機および安全管理。

3組目以降の者は順番に浅場側プールサイドに一直列に並び待機および安全管理。

終了した者は、一番後ろに並ぶ。

●5M垂直潜水

〔評価内容および手順〕 ※マスク、スノーケル、フィン、ウェットスーツ、適正ウェイト。

スタート：検定員に対しOKサインを出す→検定員がOKサインを返したら検定スタート。
ジャックナイフ（静かに）で潜降開始→水底でもやい結びを行う（しっかりと結ぶこと）→結んだら検定員にOKサインを出す→検定員が確認し出来ていればOKサインを返す→受講者は浮上サインを出して浮上する（水面の安全確認のため360度回転しながら、しっかり手を頭より高く伸ばし、ゆっくり浮上）→水面到着時飛び出さず顔を水につけたままスノーケルクリアを行う。

終了：検定員にOKサインを出す→検定員がOKサインを返したら検定終了。

〔流れ参考例〕

2名ずつ×15組。奇数番号の者は5Mプール深場側、偶数番号の者は5Mプール浅場側よりスタート。次の組は準備をして水面で待機および安全管理。

●スクーバ脱着（5分以内）

〔評価内容および手順〕 ※マスク（スノーケル付）、フィン、ウェイトベルト、BC脱着。

脱いだ器材がバラバラにならないこと（その場から動かずに器材を回収装着できること）

潜降→水底で器材を脱ぐ→バルブを閉める→正しい浮上スタイルでゆっくり浮上（息は止めない）→再度潜降→バルブを開け呼吸開始→器材装着→正しい浮上スタイルでゆっくり浮上。

スタート：水面で検定員に対しOKサインを出す→検定員がOKサインを返したら検定スタート。

終了：検定員にOKサインを出す→検定員がOKサインを返したら検定終了。

〔流れ参考例〕

4名ずつ×8組。プール入り口側から順番に1. 5Mプールに入り並ぶ。2組目は器材を装着した状態で入水して待機。3組目以降の者は順番に浅場側プールサイドに一直列に並び待機および安全管理。

終了した者は、一番後ろに並ぶ。

以上

【新潟県立海洋高等学校周辺地図】

住所：新潟県糸魚川市大字能生 3040 電話番号：025-566-3155

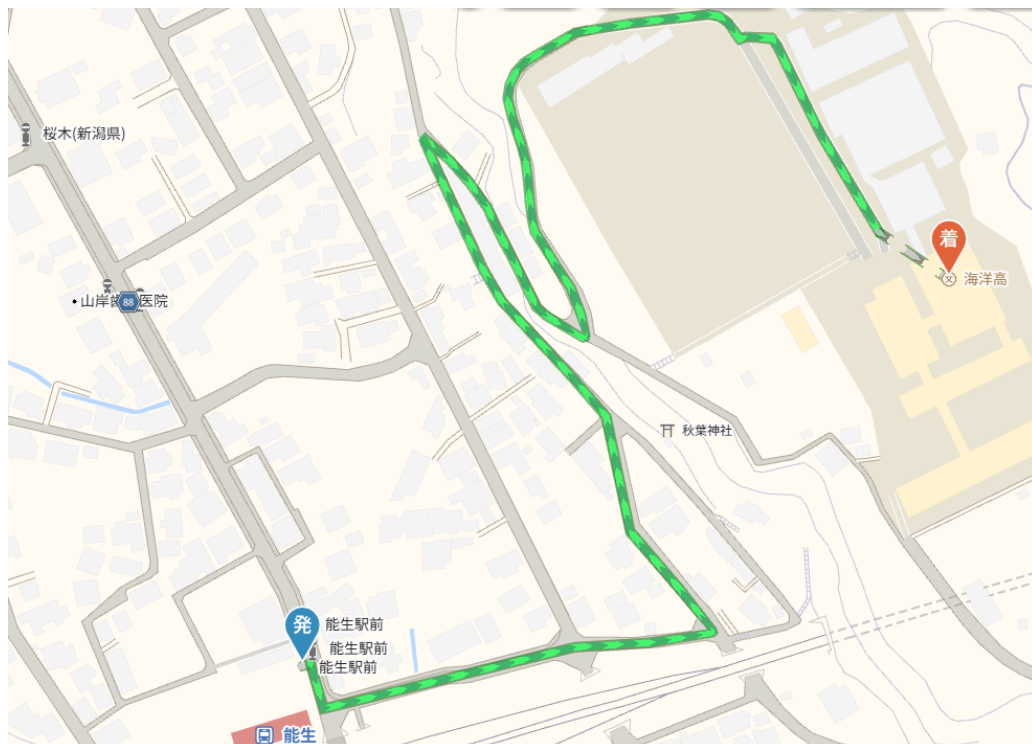
○鉄道利用の場合

糸魚川駅から「えちごトキめき鉄道日本海ひすいライン」で能生駅下車
能生駅から新潟県立海洋高等学校まで徒歩で約 15 分

○車の場合

北陸自動車道 能生 IC 出口から約 5 分

※車の場合は、駐車スペースの関係がありますので、必ず事前にご連絡下さい。



<能生駅⇄新潟県立海洋高等学校 徒歩経路>